

医学教育分野別評価 浜松医科大学医学部医学科 年次報告書 2023年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 35

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 35を踏まえ、令和4年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和4年4月1日～令和5年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 35の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・建学時の「目的および使命」である学則第一条を、看護学科創設時および第3次自己点検・評価に際して見直しを行い、その議論を、教育目標、ディプロマ・ポリシー、医学科卒業時コンピテンシーの制定に反映させている。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アントレプレナーシップ、数理・データサイエンス、AI教育についてのコンピテンシーを追加した。

アントレプレナーシップに関連した講義を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料01 医学科卒業時コンピテンシー

資料02 医学概論Ⅰ授業計画

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・第1年次における少人数の「人間科学ゼミナール」や、第2年次から第4年次におけるPBLチュートリアルで学生の学修意欲を刺激するプログラムが採用されている。

・PBLチュートリアルで、教員だけでなく第5年次学生もチューターを務めていることは評価できる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

PBLチュートリアル教育において新しい双方向コミュニケーションシステムを導入した。

改善状況を示す根拠資料

資料03 PBLチュートリアル双方向コミュニケーションシステム

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

改善のための助言

- ・行動科学について6年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年一貫らせん型カリキュラムとなっている行動科学教育において、臨床実習中に行動科学の演習を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料04 行動科学カリキュラム全体像

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・基礎医学カリキュラムにおいて、学生の学びやすさの視点から教育内容の順次性を検討することが望まれる。
- ・臨床医学を理解し実践するための基礎医学、行動科学および社会医学の視点でカリキュラムの垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年一貫らせん型カリキュラムとなっている行動科学教育において、臨床実習中に行動科学の演習を行った。

1年生の実験、2年生の基礎医学実習、3年生の基礎配属からなる研究心を涵養するカリキュラムを設け、垂直的統合を行っている。

改善状況を示す根拠資料

資料04 行動科学カリキュラム全体像

資料05 基礎配属アンケート結果

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・卒業生が働く職場からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の研修先（初期臨床研修プログラム責任者）に対して学修成果（ディプロマ・ポリシーに基づく達成度）に関するアンケート調査を実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料06（部外秘） 令和4年度 医学科学修成果に関する卒業生研修先上司アンケート調査結果報告書

3. 学生の評価

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

改善のための助言

- ・6年間の教育の各段階において学修成果の到達度を確実に評価し、学修を促進すべきである。
- ・形成的評価をさらに活用し、学生の学修を促進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ディプロマ・ポリシーに基づいたマイルストーンを作成して、個々の学生の到達度を可視化した。
- ・学修成果を可視化し、臨床実習前、卒業時にレーダーチャートをフィードバックし、学生が省察できるような仕組みを整備した。

改善状況を示す根拠資料

資料07 医学科マイルストーンとレーダーチャート

質的向上のための水準

改善のための示唆

評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを、学生に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学修成果を可視化し、臨床実習前、卒業時にレーダーチャートをフィードバックし、学生が省察できるような仕組みを整備した。

改善状況を示す根拠資料

資料07 医学科マイルストーンとレーダーチャート

5. 教員

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

改善のための助言

- ・教員や学外の教育指導者を対象とするFDをさらに充実させ、参加度を高めるべきである。
- ・新任教員に対し学部の使命や教育プログラムに関する研修会を実施し、教育能力の開発と支援を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外の教育指導者を対象とするFDを実施した。

新任教員に対して、PBLチューターの役割についてFDを実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料08 令和4年度FD講演会実施状況

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準

改善のための助言

- ・学生に携行可能な医療安全・感染対策マニュアルを配付し、遵守させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年から医療安全ポケットマニュアルを配付し、令和4年も作成した医療安全ポケットマニュアルを臨床実習の際に携帯させた。

改善状況を示す根拠資料

資料09 医療安全ポケットマニュアル2022年度版

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準

改善のための示唆

・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が電子カルテを活用しやすい環境を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

電子カルテの記載方法について、講義を行った。

新設した多目的ホールの2階に学生用PCルームを新設した。33台のPCを設置し学生用カルテ記載を行うことができるよう病院システム準備を開始した。

改善状況を示す根拠資料

資料10 医学概論Ⅲシラバス2022

資料11 PCルーム写真

6.5 教育専門家

質的向上のための水準

改善のための示唆

・医学教育に関わる研究をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育推進センターが医学教育学会で医学教育についての1演題を発表した。

改善状況を示す根拠資料

資料12 医学教育学会プログラム（ポスター）

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・IR室が中心となり、各学生の入学時から卒業時までの成績や進路の情報が集められ、カリキュラム評価委員会が分析を行っている。
・2018年に卒業生アンケートを行い、直近10年間の卒業生に対して業績調査と在学時のプログラム評価を行った。

改善のための助言

・IR室が収集したデータをもとに、6年間の学修成果をモニタすべきである。
・プログラムとその主な構成要素を適切に評価すべきである。
・プログラムが学生の進歩を促すように整備されているかを適切に評価する仕組みを確立し実施すべきである。

・プログラムの各構成要素について、どのような課題があるかを特定する仕組みを確立し、カリキュラム改善を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・IR室がCBT、卒業試験、国家試験の成績を集計して、分析をしている。
- ・ディプロマ・ポリシーを基にしたカリキュラム評価を行うために、教学IR室がデータを収集し、分析した。
- ・学生の学修成果の到達度（CBT、卒業試験、国家試験）を評価し、学生の進歩が適切かを評価した。
- ・卒業時の学修成果の学生の満足度、到達度を評価し、カリキュラムが適切に実施されているか評価した。

改善状況を示す根拠資料

資料13（部外秘） 共用試験CBT成績と国家試験成績等の関係について

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・プログラムの特定の構成要素について、適切に評価する仕組みを確立し、定期的の実施することが望まれる。
- ・長期間で獲得される学修成果を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ストレート卒業率、国家試験合格率を分析し、カリキュラムの課題を検討した。
- ・卒業生が働く職場からの情報を得るために、アンケートを取り、評価した。

改善状況を示す根拠資料

資料14（部外秘） ストレート卒業率

資料15（部外秘） 国家試験合格率

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

卒業時コンピテンシーに対する自己評価アンケートを実施している。

改善のための助言

教員と学生からフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・継続してアンケートを実施している。
- ・アンケートを継続的に実施して、評価した。

改善状況を示す根拠資料

資料16 卒業時アンケート

7.3 学生と卒業生の実績

質的向上のための水準

改善のための示唆

学生の学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を入試委員会、カリキュラム委員会、および学生支援に関する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・IR室が収集したデータをカリキュラム評価委員会が分析して、その結果を教務委員会へフィードバックした。

改善状況を示す根拠資料

資料17 教務委員会議事要旨

8. 統轄および管理運営

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・社会のニーズに対応して、総合診療教育研究センターや産学連携・知財活用推進センターを設置したことは評価できる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・次世代創造医工情報教育センターを新設し、アントレプレナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する教育を始めた。

改善状況を示す根拠資料

資料18 次世代創造医工情報教育センター組織図

資料19 浜松医科大学次世代創造医工情報教育センター規程